

ASOSA

留学生の声

青森での留学

弘前大学大学院 地域社会研究科 2年

張 修志（中華人民共和国）



大学生時代、私の専門は日本語教育であった。当時、日本に対する印象は教科書とドラマの情報から、日本に大変興味を持つと共に大きな憧れを抱いていた。2002年、一年間の交換留学生として私は初来日した。留学生生活を通じて、日本の社会風土、特に日本人の親切さを身をもって感じる事ができた。そして日本が大好きになった。2006年、私は幸運なことに国際交流員として再来日できた。様々な交流活動への参加を通して国際交流活動の重要性が分り、中日友好に微力ながら、自ら貢献できた喜びを感じた。今回の来日の目的は専門的な社会知識を学び、自分の能力を高める為のものである。

私は去年の四月から弘前大学大学院地域社会研究科に入学して、これまでの専門と異なったコミュニティづくりをテーマに選んだ。基礎知識のない私にとって、これは決して容易なことではない。でも、指導教授と研究科の先輩たちがいつも優しくしてくれた。分かりやすく説明してくれた上で、鱒ヶ沢町と七戸町等への調査に行った時に私も同行させてもらった。調査を通じて、青森の各地域そして地域住民に触れる機会が増えた。過疎地の寂しさを感じる一方、地域に根ざした古い文化の魅力と人々の優しさが感じられた。特に最近、集落点検調査に行っている七戸町上原子地区のことが印象深かった。この集落には家が35軒しかないが、千年以上の歴史をもつ「剣舞踊り」がある。「剣舞踊り」を保存していくために一生懸命に頑張っている住民たちの姿とこの過疎地の形骸化しているコミュニティを再構築しようとしている政府と大学と住民たちの努力に感心した。

何回も来日して、日本に慣れてきた私は留学生活の中で困ったことは特にないが、非常に羨ましいことに交換留学生たちにみんな、ホストファミリーがついている。もう三年ぐらい日本で暮らしている私はまだ日本の家庭に接する機会がなくて非常に残念に思っている。残る二年の留学生活の中、私にもホストファミリーができたらと思っている。

この一年半、私は青森のねぶた祭・弘前のねぶた祭り・五所川原の立佞武多に参加した。八戸の三社大祭・黒石よされ・三沢の航空祭・金木の津軽祭りも見に行った。そして、リンゴ畑のアルバイトとお寺での雪かきもやってみた。こうして、青森の各地の独自の文化と青森県全体に溢れている魅力が感じられた。より一層日本人の親切さを感じる事ができた。

ここにはいつも見守ってくれる岩木山と高く連なる八甲田がある。ここでは甘いりんごの香りに誘われて、ねぶた囃子に胸を躍らせて、弘前城の桜に魅せられて、雪国の温かさと触れ合って、津軽三味線の音色を響かせて、優しいお国訛りにあこがれて、楽しいことが待っている。ここは私の留学先の青森県である。私は心から、より多くの友達が青森に留学や観光に来ることを期待している。

ASOSA

留学生の声

私の日本留学生活

弘前大学 人文学部特別聴講生

陈 玲（中華人民共和国）



弘前に来て、もう半年過ぎました。半年前の自分はずっと大学で日本語の勉強をしていましたが、弘前のことどころか、日本のこともあまり詳しくありませんでした。「もっと日本のこと知りたい」そういう気持ちや日本での留学生活への憧れを持って、日本に来了ました。そこで、弘前—この美しい古城で新たな生活の幕が開きました。

4月の桜まつり。今でも初めて桜を見た時の感動を忘れられません。あの美しさは本当に素晴らしかったです。言葉で言えないほど感動の気持ちで胸がいっぱいでした。涙しか出ませんでした。「弘前の人は厳しい冬を乗り越えることができるのは、春になると美しい桜が待っていると分かっているからでしょう。」と授業で先生が言ったことは初めてその意味を味わいました。

8月のねぷたまつり。留学生たちはみんな集まって、自分で最初から最後までねぷたを作るチャンスがありました。絵を描いて、ろうで塗って、墨を入れて、そして、切って灯籠を作りました。本当に手間がかかりますが、自分で作ったちょっとみっともないねぷたをもって、出陣できて、本当に誇りを感じました。そして、いろいろなねぷたの絵を見られて、プロの職人たちの腕に感心しました。今でも、その夏の夕方の「やーやーどー」が耳のそばに響いているようです。

学校生活のほかに、自分にとても大きい影響を与えてくれたのはアルバイト経歴です。アルバイトしないと円満な留学とは言えないと思っている自分がアルバイトを始めました。おかげで、とってもいい勉強になりました。今はおもてなしの気持ち、心遣いという言葉を本当に分かったと言えるでしょう。

最初はちょっと理解できなかったのですが、よく先輩に「どうしていつもそんな細かいところまで心がけているのですか。別に気にしなくてもいいではありませんか。」と聞きました。そして、先輩がこう教えてくれました。「お客さんの身になって考えてください。大したことではないかもしれませんが、してくれると、やっぱりうれしいではありませんか。細かいところこそその店のおもてなしの気持ちを表すことができるんではありませんか。」今、思えば、これは新しい日本ブランド、日本サービスではありませんか。

ここに来て、本当に周りの人の好意に恵まれていて、楽しく暮らしてきました。知らない人ですが、一つの笑顔も、「頑張ってください」という一言も、うれしくてたまらないぐらいで、もっと努力しようという気持ち、もっと頑張れる力にもなります。

今は、ここに来て本当によかったと思っています。人間味があふれる弘前が本当に大好きです。

「青森での留学生活」

青森公立大学 経営経済学部経営学科 1年

金 ソラ (大韓民国)



青森市と平澤市は1995年に友好交流協定書を締結して、毎年平澤市の学生一名を、青森公立大学の留学生として選抜しています。私もこのプログラムによって、今年から青森公立大学の学生になりました。これからの4年間、青森公立大学でたくさんの思い出を作りたいと考えてとてもわくわくしています。

今年の4月、緊張感溢れる入学式を終えて、本格的に青森での留学生活が始まりました。日本語は、韓国の日本語の塾で一年間一生懸命勉強したので、あまり不安は感じていませんでした。しかし、実際に日本に来て生活してみると、言葉の壁にぶつかりました。大学で新しく出来た友達と会話をしてみたら、話すスピードが速くて、話題に追いつくことができませんでした。また、若い人たちが使う独特の言い回しや、省略した言葉が分からずに会話に苦労したこともありました。その他にも、青森の人とコミュニケーションを取ってみたら、青森ならではの方言があり、それを聞きとるのも難しかったです。

でもそれは逆に、元々日本の方言に興味のあった私にとっては、青森の方言を学ぶことができるとても良いチャンスになりました。例えば、青森の方言で「しゃっこい」という言葉がありますが、それは「冷たい」という意味でした。私はその方言を始めて聞いたとき、とても可愛らしく感じられて強く印象に残ったのと同時に、韓国ではめったに学ぶことができない日本語の深さに触れることができたと感じました。私はこの留学という機会を通じて、さらに色々な方言を学び、日本や日本語に対する理解をもっと深めて行きたいと思っています。

日本の方言にも驚きましたが、私がさらに驚いたのは、多くの日本人が韓国について詳しく知っているということでした。私に韓国の芸能人やアイドルについて質問してくる人たちもたくさんいました。また時には、私も知らない韓国のことについて質問されることもあったので、その時は自分なりにインターネットなどを利用して調べ、韓国について知ってもらえるような努力をしてきました。

そしてもっと韓国について知ってもらうためのよい方法を、自分なりに考えた結果、ボランティアに辿り着きました。最近行ったボランティアは、韓国の絵本を子供たちに紹介するボランティアです。私の話を聞いてくれた子供たちがとても喜んでくれて、すごくやり甲斐を感じました。これからもこのようなボランティアに積極的に参加し、韓国の事を多くの人に知ってもらいたいと思います。

私が青森に来ておよそ8カ月が経ちました。青森に来たばかりの頃は、わからないことばかりでしたが、今こうして生活が出来ているのは、周りの友達や、先輩のおかげだと思っています。この感謝の気持ちを忘れず、これからも周りの友達を大切にしながら、勉強やボランティアを頑張り、充実した留学生活を送りたいと思います。

ASOSA

留学生の声

青森での留学生活

北里大学大学院 獣医学系研究科動物資源科学専攻博士後期課程 1 年

周 蘭西（中国）



初めて日本に来たのは、今から 6 年前の夏でした。その時は、夏休みを使って北海道に一週間遊びに来ました。紫色のラベンダー畑、涼しくて澄んだ空気、美味しい日本伝統料理、そして礼儀正しく親切に接してくれた日本人、すべてが美しく感じ、日本はとても素敵な国だと感じました。そして、絶対またいつか日本に来たいと思いました。

3 年前、念願の奨学金をもらうことができ、日本に留学生として行くことができると知った時の喜びは今でも覚えています。しかし、喜びと同時に、不安もありました。自分の日本語は大丈夫なのか、友達ができなかったらどうしようかと毎日考えていました。今振り返ってみれば、あの時の不安は本当に不要だったと思っています。実際日本に来てみれば、周りの日本人は優しい人ばかりでとてもフレンドリーでした。同じ研究室のみんなもたくさん話かけてくれて、片言の日本語しか話せない私でしたが、だんだん日本語を理解することができるようになりました。また、みんなの暖かい応援のおかげで、日本での毎日を楽しく過ごすことができています。

青森は長く住むほど好きになるところだと思います。春には弘前公園で日本一の規模を誇る桜を鑑賞してきました。桜の花びらが風とともに舞って、ピンクの雪みたいでとても綺麗でした。夏の青森は活気に溢れていました。日本の三大祭りの一つにねぶた祭りがあり、幸せの鈴をつけた跳人という人が掛け声に合わせて跳ねていました。跳人が持つ鈴を貰うと幸せになれるといわれているので、みんなが鈴を貰ったり、拾ったりしていました。日本には「食欲の秋」という言葉がありますが、その言葉通りに、青森の秋にはリンゴ、サンマ、マグロ、焼き芋など美味しい食べ物が多くあります。私は研究室の友達と十和田市にあるリンゴ園に行き、リンゴ狩りをしました。十和田のリンゴは甘くてシャキシャキしていて、あんなに美味しいリンゴを食べたのは生まれて初めてでした。冬の青森はしんと雪が降ります。私が生まれた都市はあまり雪の降らないところなので、初めて一面白銀の世界をみた時その美しさにとっても感動しました。雪が積もれば、友達と雪だるまを作ったり、雪合戦したり、スノーボードしたり、みんなとの友情を深めることができました。このように、青森の春夏秋冬にはそれぞれの楽しみがあり、私の留学生生活を明るいものにしてくれました。

これまでの三年間、日本で生活してきて、たくさんの優しい人に出会え、毎日がとても充実していました。日本に留学するという決断をして本当によかったと思っています。

ASOSA

留学生の声

日本で発見

八戸工業高等専門学校 物質工学科 第5学年

ファティマツザハラ ビンティ ザイノル (マレーシア)



私は子供の頃から留学したいと思っていた。もし留学できれば他の国の文化だけでなく、いろいろな観光地に行ける。私の姉はイギリスに留学したので羨ましいと感じた。姉に負けないよう意志を持って、高校で頑張って勉強してやっといい成績もらった。その結果、日本に留学することができた。

日本に留学してもう3年間経った。時間が早く過ぎたと感じている。2012年4月日本に来たばかりの時は桜が咲く時期だからとてもきれいだった。日本は春、夏、秋、冬の四季がある。マレーシアでは一年中乾節と雨節に別れているので季節の変わりがあまり感じない。毎年、春になると日本の各地で美しい桜が咲き、人々を楽しませる。しかし、桜は咲いてからたった四日か五日で散ってしまう。そこで、桜が散らないうちに花見に行っているいろいろなことを学ぶ。たとえば、農民達にとって桜は大切な意味がある。農民は桜の満開を見て、秋には米がたくさん実り、食べ物に不自由にしないことを願うと言われた。7月になると夏に入って、気温がだんだん上がって暑くなって雨も良く降る。この時にマレーシアの気候と同じように感じた。

秋になると、寒くなる。11月あたりに紅葉が赤と黄色に色付くのが見える。冬になるともっと寒く感じる。12月下旬になると、お正月の準備で日本人のみんなが忙しくなる。

日本人はどんな仕事をやっても、完成まで一生懸命にやる。私は街に出かけた時、道に沿って歩くと、いつもお年寄りが見られる。管理する人から散歩する人までのさまざまなお年寄りがいる。マレーシア人の考え方は、年取ったら家でゆっくり休んだほうがいいという考え方。逆に、日本人の生活を見ると、年齢関係なく、やれる仕事はやればよいと見なす。

マレー語のことわざに「時間は金である」がある。時間の大切さを表す。日本人はこのことわざが当てはまる。時間ちゃんと守るし、遅れることなかなかないし、すごく規則正しくする人間だ。

日本はマレーシアと比べるとさすがに便利な国だ。バスでどこでも行けるし、新幹線で短時間で遠いところまで行けるし、コンビニでいろいろな便利なこと用意してくれるし、本当に良い国である。特に日本は安全だと思う。夜一人で歩いても平気である。マレーシアでは夜遅く歩く時はタクシーに気をつけなければならない。shopping mallなどの駐車場も危険だ。特に閉店間際の人気のないシーンとした駐車場は周りを見渡しながらか車に向かい、車に入ったらすぐにロックしないと危険なことになる恐れがある。

日本に留学できてよかったと思う。勉強だけでなく日本の文化とか、生活、習慣いろいろ学ぶことができた。これからも日本にいる間、いろいろなことを体験してみたいと考える。

ASOSA

留学生の声

日本での生活の感想

青森中央学院大学 交換留学生

レ・ティ・テュエット・ガン (ベトナム)



私は交換留学生として青森中央学院大学で勉強しています。中学校の頃、川端康成の小説を読んでから、日本の文化が好きになり、ぜひ日本へ行きたいという夢をずっと抱いていました。うれしいことに、この夢は今現実になりました。

今でも来たばかりの頃の思い出が記憶の片すみに残っています。飛行機の窓からうっすらと雪で覆われている地面を見た時、清くてきれいだと思い、すごくわくわくしていました。春になると、弘前公園へ行き、桜の花びらが浮んでいる外濠でボートを漕ぎ、暖かい日差しを感じました。夏になると、ホームステイで南部町に住み、お母さんと友達と一緒にリンゴを切ったり、ぶどうを結んだり、料理を作ったり、色々な話をしたことで、家族のような雰囲気を感じました。秋になると、十和田湖へ紅葉を見に行きました。もうすぐ冬です。青森での生活は後三ヶ月だけかもしれないが、この楽しい思い出はいつまでも心に残ります。

特に、白神山地での植樹や、障害のある子供たちのためのクリスマス大会などのボランティア活動に参加し、多くの貴重な体験を積んできました。新しい所へ行き、新しい友達に出会い、障害のある人を助けることは、自分が社会の役に立つと感じます。この間、クリスマス大会の際に、ある日本人に「障害のある人は言葉がぜんぜん分からないですね。どうやってコミュニケーションできますか」と聞きました。その人は「まず目を見て、ニコニコ笑いながら握手する」と答えました。このコミュニケーション手段のようを試みたら、心が温かくなりました。

また、青森県の知識を得るために、毎月交流会や体験型取材に参加します。素晴らしい景色をながめたり歴史的な場所へ行ったり地方産物の作り方を学んだりしたら、青森には高層ビルや映画館などあまりなくても独自の面白さがあると思います。体験型取材により、青森のことをもっともっと知ったばかりでなく、面白さや楽しさも味わうことができます。

いい体験だけでなく、日本語もだんだんうまくなりました。来たばかりの時日本人と話すと、恥ずかしくて何も言えなかったですが、今や自信を持って話せるようになりました。数ヶ月前に日本語能力試験のN2に合格したという結果をもらい、本当にうれしかったです。

しかし、楽しみの外には困ったこともあります。暑いベトナムに対し、青森はとても寒い地方です。冬が来たら、寒さになかなか慣れません。しかも、家族と離れて暮らしているので、ふと孤独感を感じることもあり、すぐベトナムへ帰りたいなあと思いました。また、日本語で各法律科目を勉強することはとても難しくて憂うつでたまらなくなりました。いつもあきらめないように頑張ろうと思います。

そろそろ卒業します。一年だけ青森で勉強しますが、日本語を学ぶだけでなく、大学のボランティア活動に参加し、日本人と各国の留学生に出会い、色々な体験を積むことで、自分が多く変わって成長したような感じがします。

ASOSA

留学生の声

青森を好きになった！

青森中央学院大学 経営法学部 3年

テープシュリーボンシン パッチャナンパット (タイ)



3年半前、私はタイで獣医になるため毎日、月曜日から金曜日まで、午前8時から午後6時まで勉強していました。そして、土曜日と日曜日にも塾で勉強していました。しかし、持病のせいでこの分野の勉強を続けることができなくなってしまったので、文科系に変更し、タイの大学で勉強していました。タイの大学で私はビジネス日本語という学科を選び、1学期勉強していました。ちょうどその頃、父の友達が青森中央学院大学を紹介してくれました。それがきっかけで私は今まで青森にいます。

青森に来る前に、ひらがなとカタカナしか勉強していませんでした。自分の名前はカタカナで書けたのですが、他の字はどのように書けばいいのだろう、とよくわかりませんでした。漢字が全然わからなかったからです。青森に来た頃はとても大変であり、ここに来たことは間違った決定だったのではないかと思います。日本語も話せなかったし、料理も作れなかったし、地震もとてもこわかったです。すごく大変で、苦しく、泣きたいくらいでもう帰国したいと思いました。しかし、私はいい先輩といろいろな国からの友達に恵まれて、そのような苦しい思いが少しずつなくなっていきました。

雪もそうです。タイではどこへ行くにも母と一緒に車でしたが、青森では一人で生活しているため、車もないし、タクシーに乗ると高いので、自転車とバスと歩きだけでした。私は自転車で転んだことがあるため怖いです。そうするとバスか歩きしかないのですが、実際に雪が降ると、バスは遅れて来るため歩きだけになりました。寒くて歩きにくくて何回も転びました。青森に初めて来た時、日本人のみんなから「雪が降ると、壁のように高いですよ」と言われていましたが、「百聞は一見にしかず」で体験すると「もう、いやだ、青森」と思いました。

しかし、もう3年も経つと慣れてきて、この青森の季節が大好きになっています。青森の冬はすごく寒いですが、私は「暑い」季節より好きなのです。たくさん写真を撮ったり、雪で遊んだり、友達と一緒になべを食べたり……。特にこのような寒い時の青森のラーメンは絶品です。

もちろん、冬だけでなく青森の四季も好きです。私の大学では、季節ごとに経験をさせてくれます。春にはお花見で友達と一緒に食べたり写真を撮るたくさん撮ったり、夏にはねぶた祭りに参加してとても楽しかったです。秋には、紅葉狩りで写真を撮るたくさん撮りました。そして、写真を撮ることが好きな私にとって、一年中、いろいろな景色を撮れる青森はとても好きです。

私の青森留学は、もう3年経つので、残り1年間だけである。最初は青森のことが好きではなくて、何回も帰国したいと思っていましたが、青森が好きになった今はあと1年しかない、時間が早いと思っています。

私は卒業したら、帰国の予定があるので、今おいしい日本料理を食べたり、雪を遊んだり、紅葉を見に行ったり、美しい桜を身に行ったりなどの機会がなくなると考えると、どうなってしまうのだろうかと考えてしまうようになりました。帰国したら、絶対青森のこと思い起こすはずですよ。なぜなら今は青森がもう一つの家のように感じるからです。私は本当に青森が好きになったようです。